

# JPR通信

2006

Vol. 2  
2006年9月

NPO法人 当別エコロジカルコミュニティ  
TEL : 0133-22-4305  
FAX : 0133-22-2263  
E-mail : tectec\_ee@ybb.ne.jp  
ホームページ : [http://www.geocities.jp/tectec\\_ee](http://www.geocities.jp/tectec_ee)

参加人数

男子 10人  
女子 5人



活動場所

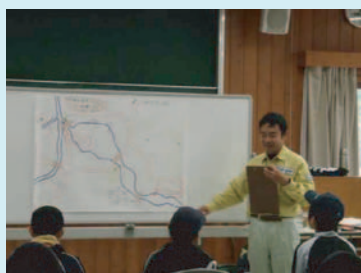
洞爺財田自然体験  
ハウス、壮瞥川周辺



## 第2回 もともとの自然に帰してみる (ビオトープ作り)

2006年9月9日 (土) 10:00~15:00

### ビオトープの生きもの調査



去年からビオトープの生きものを継続して調べています。去年と比べると、草丈がずいぶん伸び、ヤナギの木は大人の背丈を優に越えるまでになってしまっています。見た目だけでも変化がわかりますが、水の中の生きものはどうでしょう？ グループに分かれ、レンジャーと一緒に調査をしました。

ビオトープの流れの中に仕掛けをしてみました。その中には、ヤマメ、ドジョウなどたくさんの魚が入りました。次に、網を下流に置き、上流から何人かで追い込んでみました。子どもたちは、長靴でジャブジャブと追い込みます。追い込まれた魚が次々に網の中に入ってきました。ヤマメ、ドジョウなどの魚だけではなく、ヒルやヨコエビ、ゲンゴロウなど色々な生きものが捕れました。

財田の自然環境を再現するビオトープ作り。子どもたちと一緒に調査をしながら、その変化の仕方を楽しむことが出来ました。

### サクラマス遡上！？



この時期、湖に降りていたヤマメは、大きく成長してサクラマスとなり生まれた川に戻ってきます。午後はサクラマスの遡上を観察します。

初めは、陸上から魚影を探します。大きな黒い影が見えます。どうやらサクラマスがいるようです。川原に下り、今度は水中カメラを使って水の中をのぞき込んでみました。小さなヤマメがたくさんいます。そこに大きな陰が現れました。サクラマスです。一同から「お～！！」と歓声があがりました。

レンジャーがサクラマスの一生を物語にした「紙芝居」を用意し、子どもたちに読み聞かせをしました。

### アイスブレイキング



初めて参加した子どもたちもゲームでうち解けてゆきました。

### 葉っぱのスタンプ



最後に財田体験ハウス周辺にある樹の葉の図鑑作りに取りかかりました。チームに分かれ、湖畔のトレイル沿いに生える樹の葉っぱを集めながら壮瞥川からトレイルを体験ハウスまで歩きました。

体験ハウスにもどり、集めた葉っぱの裏にステンシル絵の具を塗り、用意しておいた布にスタンプのように押ししていくと、葉っぱの模様がつきます。コツは、葉脈が浮き出るように絵の具を付けることです。模様が浮かび上がった葉っぱには、図鑑で名前を調べて書き込んでいきました。

9月9日 (土)

午前：はじめは仲間作りのゲームです。ウォーミングアップです。その後、グループに分かれてビオトープの生きものを調べました。

午後：壮瞥川まで歩き、遡上してきているサクラマスを観察しました。帰りはトレイル沿いの木の葉を拾い葉っぱのスタンプ図鑑を作成しました。